

## 国際防衛ラグビー競技会観戦に受験対象者を案内 ～迫力とスピード感があり楽しかった～

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原一陸尉）は、9月15日（日）国際防衛ラグビー競技会の見学に今年度の受験対象者を案内した。この競技会は2011年からラグビーワールドカップにあわせて開催され、今回が3回目となるものであり、9月11日から9月23日の間、自衛隊のほか9カ国の軍隊が参加して行われた。これは「日本で戦うもう一つのワールドカップ」ラグビーが「つなぐ世界の戦士の絆」をスローガンに、大会を通じて各国軍間の相互理解・交流を深めることを目的としている。当日は当募集案内所担当の対象者5名が参加し、陸上自衛隊朝霞駐屯地内の会場へと向かった。現地に到着するとニュージーランド対オーストラリアの対戦が始まった。試合を観るやいなや参加者は両軍の熱戦に釘付けになり、身を乗り出して観戦している姿が印象的だった。終了後には「迫力があり面白かった」「選手を身近に見られて、スピード感もあり楽しかった」などの感想が聞けた。最後に広報センターを見学して朝霞駐屯地を後にした。

横浜中央募集案内所は、「今後もこのようなイベントに対象者を案内し、国防に興味を持ってもらうとともに、防衛省・自衛隊に対する理解を深めてもらう募集成果につなげていきたい」とコメント。



参加者と所長（左端）



ニュージーランドとオーストラリアの試合



広報センターで記念撮影

## 自由民主党横浜市議員団三宿駐屯地研修

自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 林一陸尉）は9月10日（火）、自由民主党横浜市議員団の陸上自衛隊衛生学校及び自衛隊中央病院研修を支援した。

本件は自衛隊の衛生科部隊及び病院を研修し、災害派遣や国際平和協力活動などにおける自衛隊の医療・衛生活動に関する理解を深めることを目的として企画されたものであり、計26名の市議員が参加した。

当日は残暑厳しい中、衛生学校では野外手術システム及び救急車、中央病院では病院設備を研修し、災害時の装備品の運用方法、隊員の後送後の対応及び部外の病院との違い等について積極的に質問したり、装備品や設備の説明に熱心に耳を傾けたりする姿がみられた。

横浜出張所は、「今後も部外協力団体等の部隊研修支援を継続的に実施して防衛省・自衛隊に対する理解と協力の促進に努めていきたい」としている。



野外手術システムの前で集合写真